



保育所調理室で作る離乳食を提供。調理法やアイデアも紹介している

学校法人札幌学園真駒内幼稚園では、10年以上前から独自に「未就園児親子の集い」を実施してきました。現在は同法人が同じ園舎で運営する認可保育所「遊・Win g」と連携・協力し、それぞれの

幼稚園

**学校法人 札幌学園  
真駒内幼稚園**

南区真駒内曙町

子育て ■社員参加 ■機会創出

## 子育て中の親同士が交流できる場から「人と人のつながりの大切さ」を発信

「ファミリーベビー」は特徴的な活動のひとつ。保育所の離乳食の試食や簡単な工作など、同園教諭と保育士が内容を工夫しながら毎月開催しています。人手、時間、費用を要しますが、参加者に喜んでもらうことを原動力に、笑顔の輪を広げています。

親子の集いのなかでも0〜1歳児とその親を対象にした「ファミリーベビー」は特徴的な活動のひとつ。保育所の離乳食の試食や簡単な工作など、同園教諭と保育士が内容を工夫しながら毎月開催しています。人手、時間、費用を要しますが、参加者に喜んでもらうことを原動力に、笑顔の輪を広げています。



「お母さま方に少しでもくつろいでほしい」と岡内副園長（写真中央）



環境教育情報紙「エコチル」は市内小学校に毎月10万部無料配布

「子どもたちから始まる環境活動の輪」をテーマに、エコチル事業を展開するアドバコム。プロモーションの力で社会的課題解決に貢献することをミッションに掲げ、行政・学校・企業を巻き込んだ

広告代理店

**株式会社 アドバコム**

中央区南2西1

教育 ■機会創出

## 社会的課題の解決にビジネスで挑む環境に関する「エコチル事業」を展開

「『エコチル』を発行し続けることは、将来、環境保全を積極的に考える大人が増えることにつながる。ユーザー、スポンサー、地域社会をエコで結びつけ、それぞれに有意義な価値を創造し提供し続けたい」と白井純信代表取締役。

大きなうねりを生みだし、環境コミュニティの形成・拡大に取り組んでいます。その核となるのは、平成18年から市内の小学校に配布する月刊フリーペーパー「エコチル」。紙面のみならず、イベントやテレビ番組などを通じて、環境情報の発信・普及啓発を図っています。



NPOなどと連携し、環境教育を目的にエコチルイベントを定期的を実施

● 本業を活かす

基金設置

灯具清掃修理

就労体験

保育園開放

電気・電気通信工事

エル電株式会社

東区北33東18

地域安全 ■社員参加 ■人材活用

**工事現場の周辺地域にて  
防犯灯や電灯を清掃・修理**

「社業を通じて世間に貢献」を社訓とするエル電。地方での作業が長期にわたることがあり、休工期を使って工事周辺地域の防犯灯、バス停や公衆トイレの電灯清掃・修理、草刈りなどを行っています。「今後は札幌市内でも何か活動ができれば」と考えています。



地域を巡回し、清掃や電球の交換を実施

郷土料理店経営

札幌観光株式会社

中央区南3西4

その他 ■物品提供

**児童養護施設の子どもを  
「杉ノ目」の会席に招待**

「きょうじょう料理亭 杉ノ目」を経営する札幌観光では、市内数カ所の児童養護施設の子どもたちが高校を卒業し社会に出るタイミングで、杉ノ目の会席に招待し、フルコース料理を食べるときのマナーを指導しています。「お祝いと激励の意味を込めて行っている」と杉目幹雄代表。



杉ノ目で会席料理を楽しむ卒業生たち

コーヒー豆販売、喫茶店経営

株式会社 宮田屋珈琲

清田区清田

教育 ■機会創出 ■技術提供

**小中学生向けコーヒー講座  
豆の焙煎の見学も実施**

地元の小中学校からの依頼で、生徒を対象にしたコーヒーに関する講座を行っています。清田区本店でコーヒー豆の焙煎の様子を見てもらうほか、淹れ方や豆の産地、味などを宮田一也代表が自ら講義。「この研修が子どもたちの成長にいい刺激となればうれしいですね」。



生豆について生徒に講義する宮田代表

調剤薬局、ドラッグストア運営

株式会社  
アインファーマシーズ

東区東苗穂

教育 ■資金提供 ■機会創出

**医薬・医療分野で産学連携  
5つの大学に寄付講座設置**

平成17年から総合大学の医学部にて寄付講座をスタート。全国5大学で7講座を実施するとともに、医薬に関する共同研究を行っています。同社では産学連携の取組を通じて、「医薬・医療の発展、次代を担う医療従事者の育成に寄与していきたい」と考えています。



東京大学医学科学研究所研究室の光景

保育園

社会福祉法人 陽光福祉会  
光の子保育園

豊平区月寒東

子育て ■社員参加 ■機会創出

**保育園児と地域の親子が  
遊ぶ場・つながる場を提供**

保育園に通っていない子どもたちを園児と一緒に遊ばせたり、親同士の交流、保育士とのふれあいを図るなど、保育園を知ってもらう活動に取り組んでいます。「地域との交流を大切にし、保育の現場から情報を発信して、子育てを応援できたら」というのが同保育園の思いです。



にぎやかに園児と楽しく遊び

イチゴ生産、観光農園

株式会社 Snowberry Farm

南区豊滝

その他 ■機会創出

**ニートなどの若者に  
働く機会・訓練の場を提供**

札幌市からの打診がきっかけで、2年前から就労機会が得られない若者などを訓練生として受け入れています。彼らは5カ月間、イチゴの栽培から出荷に至る作業を経験。「短期間だが忍耐力や精神力を養い、ここで培ったことを次に活かしてほしい」というのが同社の思いです。



イチゴ栽培を通して忍耐力などを養う



社外の任意団体が開催している石狩浜のごみ拾い活動にも参加

IT技術者が社員の大半を占める北海道総合技術研究所では、社外に目を向ける機会を創出しようという代表の意向で、平成17年より、社内整備・活性化五カ年計画を開始。社員が「社内教育」「PR」

システム開発

## 株式会社 北海道総合技術研究所

中央区北10西24

その他

■社員参加

## 社外に目を向ける機会としてスタート 清掃活動に励むボランティアチーム

現在、社員全員参加を目指し、過去の活動内容を発表するなど、様々な仕掛けを試行中。また、ほかの活動にも挑戦したいとも考えています。

バーが毎回固定化しつつあるということですが。

「セキュリティ」「防災」「ボランティア」という5つのチームのいずれかに属し、成果を上げるという取組です。7名が在籍する「ボランティア」では、リングプルやエコキャップの収集、清掃活動を行っています。清掃活動時はほかの社員にもメールなどで声をかけ参加を募りませんが、今一番の悩みは参加メンバーが毎回固定化しつつある



これからもっと参加人数を増やしたいという会社周辺のごみ拾い

テレビ局

株式会社 テレビ北海道

中央区大通東6

子育て ■人材活用

**技術に裏付けされた表現力  
TVhアナ「読み聞かせ隊」**

開局20周年を契機に、希望する保育園や幼稚園、学校を対象にしたアナウンサー読み聞かせボランティアを始めました。最初はノウハウのあるNPOに相乗りし、経験を積んだ後に単独活動を開始。プロならではの表現力が評判を呼び、口コミで依頼がくることもあるそうです。

大藤アナと丹羽アナによる読み聞かせ



幼稚園

学校法人 資生学園  
つぼみ幼稚園

中央区南7西25

福祉 ■その他

**地域交流活動の一環として  
園児が福祉施設を訪問**

地域との交流を大切に考えるつぼみ幼稚園では、敬老の日やクリスマスなどの行事に合わせて年4回、園児が介護老人福祉施設を訪問。踊りや歌、折り紙などを一緒に楽しんでいます。子どもたちの訪問は、あらかじめ施設の年間計画に加えられるほど、入所者たちに好評です。

園児の訪問は施設にも喜ばれている



保育園

社会福祉法人 藤美福祉会  
菊水元町保育園

白石区菊水元町

子育て ■機会創出 ■技術提供

**開かれた保育園を目指して  
人材と教材を地域に開放**

地域に開かれた保育園を目指し、月1回、保育園に通っていない未就学児とその保護者を対象に園を開放。在園児と一緒に保育する「子育てサロン」と「ちっ子」を開催しています。要望に応え、子育ての不安や悩みに関する相談も受付。常連の参加者も多く、好評を得ています。

保育士の下、いろいろな遊びを体験



# 保育科をもつ短期大学部に 子育て支援センターを設置 親子のつどいの広場を地域開放



自由に楽しむ「んぐまーま」には毎回たくさんの親子が訪れる



乳幼児親子と接する機会の少ない学生たちには貴重な学びの場

幼稚園・中学校・高等学校・大学運営

学校法人 札幌大谷学園

東区北16東9

子育て

■機会創出 ■物品提供

## 子育てNPOと連携 つながりの輪を広げる場

学園設置校である札幌大谷大学短期大学部は、地域の声を教育と研究に活かす目的で、平成17年に子育て支援センター「んぐまーま」を立ち上げました。取組の一環として、校舎内についての広場を開設。毎週木曜日の10時から15時まで、地域の親子に開放しています。

「んぐまーま」はNPOとの協働運営。同短大卒業生が代表を務め、20年以上活動しているNPO法人子育て応援「かざぐるま」のメンバーが専門スタッフとして常勤しています。ここでは主に0〜3歳児とその親が気軽に集い、基本的にノンプロگرامで自由に過ごすなかで、親が子育て仲間を見つけたり、育児相談などができる場を提供。保育科2年生の家族援助論の実習の場でもあり、毎回5人ほどの学生が交替で参加しています。

## 学生が親子とふれあい みんなで一緒に育ち合う

センター長で保育科教授の大西道子さんは「学生が子育てしている親たちと接したり、かざぐるまスタッフの様子を観察することで、『子育て支援とは何か』を実体験し、保育界に入っていくのは意義のあること」と語ります。また、親たちには「自分も学生の育成に貢献している」という生き生きとした感じが見られるそうです。

「友だちを見つけよう・みんなで大きくならろう」という「んぐまーま」の志は地域に広がりをみせ、親子、学生、スタッフ、教員がともに学び合い、育ち合う場になっています。

成功の秘訣

大学、NPO、地域  
連携による  
相乗効果